

平成21年度第2回

恵那市総合計画審議会 会議議事録

《要約版》

- 開催日 平成21年8月5日（水）
- 時間 13:30～16:00
- 場所 恵那市役所会議棟 大会議室
- 次第
1. 委嘱書の交付
 2. 市長あいさつ
 3. 会議の公開、会議録の公表について
 4. 議事
 - ①前期計画の進行管理について
 - ②後期計画ワーキング会議の報告
 - ③その他

●欠席者（敬称略）

総合計画審議会委員

鎌田 満、加藤 光明、近藤 良三

●傍聴者

5名

1. 委嘱書の交付

2. 市長あいさつ

可知市長 急に暑くなった。今日は、午前中、副市長と笠置山の中を駆けずり回っていた。笠置山では今ボルダリングが盛んになっていて、各地から訪れていらっしゃる方がどんなことをやっているのか見させていただいた。汗びっしょりになったところだ。

本日は大変忙しい中出席いただき感謝する。新しくなられた委員にはよろしくお願ひしたい。

今日は皆さまに「恵那市の経営」をお配りしている。この冊子は総合計画の達成状況、行財政改革の行動計画の達成状況、そして財政状況が他市に比べてどうなっているのかという 3 部構成でできている。今日は総合計画の達成状況を中心に説明させていただき、市民の皆さまに恵那市の状況を知っていただきたいと思う。このように冊子にまとめて 3 回目になるが、市はどういう状況になっているのか、めざそう値が達成できていないときはなぜできていないのか、達成するためにはどうすればいいのか、しっかり市民の皆さまにも考えてもらわなければならない。この内容は冊子だけでなく、HP にも載せてある。いろんな団体の皆さまにもご説明させていただきたいと思っている。いろんな会議がある場合は振興事務所などにも出かけて詳しく説明していきたい。

第 1 回目の総合計画審議会の後、ワーキング会議を開催している。多いところは 4 回ほど開催していただいた。今日は各分野の課題の整理について各部会がどのようなことを話し合ってきたのかを皆さんに聞いていただいて、審議会としての認識を深めていただきたいと思う。

また、各地域で地域計画を作っていただきたいということを、5 月 28 日の地域協議会の会長宛てに諮問させていただいた。地域計画は各地域協議会で策定していただいているわけだが、最終的には総合計画と整合性をとることになるので、これについてもまた総合計画を策定していく中で報告させていただきたいと思っている。

3. 会議の公開、会議録の公表について【全員了承】

4. 議事

有本会長 あいさつと言われたが、私は市長のように気の利いたあいさつはできない。しかし円滑に議事進行をしていきたいと思う。スケジュール表（第 1 回審議会資料 P. 12）をご覧ください。今日が課題の整理、11 月に基本計画骨子・基本構想、来年 2 月に基本計画素案、6 月に答申とあり、つまり来年の 6 月には完成したものをお出しする予定になっている。

2 月には基本計画素案を作るため、地域計画との調整が今年の秋あたりに必要になってくる。また、3 つの部会で話し合っていた内容と、人口減少対策・長期財政計画の 2 つの部会で話し合っていた内容との調整も必要になってくる。これ

は3つの部会6本の柱が横並びに統合されたものが、あとの4つ目、5つ目のプロジェクトの課題となっているからだ。今日は議題内容・説明が多く、皆さまに発言していただく時間はあまりないかもしれないが、気になるところはしっかりと質問していただきたいと思う。

①前期計画の進行管理について

〔事務局より平成21年度版「恵那市の経営」を用いて説明〕

有本会長 質問に移りたいところだが、今日は議事内容も多いことなので、質問は各ワーキンググループ内で聞いていただくということにしたい。

②後期計画ワーキング会議の報告

有本会長 時間もないので、話し合っていた内容の一番大事なところだとか、一番議論していただいた項目に限って説明していただけるとありがたい。また、地域計画とかかわってくる部分や、新しい課題との調整、今後ワーキンググループで話し合っていたく時の進め方に関する改善点だとかを中心に発表していただけたらと思う。

〔各部会より『課題の整理』の発表〕

〔事務局より『各課の見直し案』～『施策別「現況と課題」の見直し案（市民参画まで）の説明〕

有本会長 先ほど申したように、人口減少対策と長期財政計画に関しては、後ほど詳しく説明していただくとして、まず3つの部会について、ご質問をいただきたいと思う。まだ課題の整理の段階なので、付け加えはできるが、もっとこういった進め方をすれば市民協働にふさわしいのではないかと、話し合った内容が盛り込まれていないのではないかと、その他何か気になったことがございましたらお願いしたい。

委員 **資料3**の7ページの「地域内外の交流を支える道路体系の強化、幹線道路整備の推進」の中に、“南北軸の道路体系が弱いため、国道418号・・・”とあるが、少し気になった。南北の道路体系が

弱いのは、国道 418 号と国道 363 号、県道 11 号だと思うので、その辺りの認識をお願いしたい。

【事務局より人口減少対策プロジェクト内容の説明】

有本会長 3つの部会について報告していただいたが、それぞれが関連しているし、新しいプロジェクトについても報告していただいたので、その報告の中身についてお互いの理解を図って、これからの方向性を明確にするという趣旨で質疑応答をお願いしたい。

委員 後ほど長期財政計画の方で説明があるが、私どもの部会の中でも、現状の政府のもとでいかにやっていくのかという前提で話しをさせていただいた。そうなるの見通しの暗い話ばかりで、附随する話が多くなり、他の部会の話題にも大きく入り込んでくるので、長期財政だけの部分に話しを絞った。

今少子化の話があった。既に部会長からも報告があったが、一つには今の社会的な背景に要因があるのではないかと思う。というのも、子どもを産む夫婦のあり方だ。結婚しないというのが増えてきている。若い人が非正規社員であったり、派遣労働であったりで身分安定が無いために、なかなか結婚ができない、結婚しないという状況が当市にもある。子どもを増やしてもらいたい年代が結婚をしないというのは、大変な状況だ。このような社会的背景を行政も考えていただきたい。例えば商工会議所等における企業の皆さんの努力や協力等もお願いしていただかなければならない。やはり身分の安定ができて初めて結婚、子どもを産むという状況ができる。

そして、今度は子どもを産む段階になったときに、恵那市民病院など、2つの中核医療のあり方がかかわってくる。そこに子どもを産める診療科目を設けるべきだと思う。そして、そのフォローとして助産師など体制を構築することが大切だと思う。

そして、一つの例だが、中津川市坂下の診療所は国保坂下病院として新しくなったが、ある時その院長さんと話をすると、なかなか医務局からの若い医師派遣は難しいそうだ。遠い、汚い、小さいというのは嫌うそうだ。うちはきれいにはした、と。ところが医務局のお医者さんは来づらいそうだ。やはり家族そろって、そういったところへ来るというのは、教育環境、医療環境の面なども都市部とは違うので難しいということだった。恵那市におい

でも人口減を止めるには、そういったよそから住んでもらうという視点が大事だと思う。それらについては部会の中でいろいろと方策が議論されているかと思う。少子化については、恵那市のみならず全国的な課題だと思うが、恵那市は恵那市としての知恵を出して、人口減のカーブを施策の中で緩やかにしていくことが大事だと思う。

委員

人口減少の統計は、既に市の方から何度も出されているが、地域によって急激な減少をしている地域もあれば、緩やかな減少の地域もある。これは全国的にもそうだと思う。後期計画を作るときに地域計画を作るようになってきているが、13地域で全て人口減少について考えてくださいということ由市から各地域に言っているのかどうかをお聞きしたいと思う。

もう一点、串原とか上矢作町、また笠岡地域では、非常に高齢化率が高くなっている。一方平均を下回るようなところは、大井町、長島町、武並町だ。そういった地域にもっと重点的に定住促進を図るようにする強力な施策があつていいのではないかと思う。市全体を満遍なくではなく、強弱をつけた施策があればいいのではないかと思う。その辺りはどのようなお考えをお持ちか。

可知市長

5月に13地域の地域協議会で地域計画についてお願いに言ってきた。そこでは大変暗い話ですがという前置きをして人口減少について、市で行った人口推計を基にしてお話した。地域ごとの人口推計を示してきた。市としても人口減少対策はやっているが、地域でも考えてください、市に提案してくださいという話もした。

ある地域では、その話をしたら、市は子育て支援などをやっているけれども、本当に若い人が来るのか、今の若い人たちは子どもをつくるのかという話がありました。これはもう教育の話ではないかと言われた。いくら施策を行っても、本人たちがその気になってももらわないとだめですよ、と厳しいことを言われた。

またある地域では、地域全体が限界集落になってしまうという話も聞いた。例えばそういった地域が自分たちで土地を提供して、そこに市として建物を作るなどをしたときには、他にどういうことをしてくれるのかという話も出た。市としては、例えば地域が頑張つて5世帯確保するというのであれば、そこにそれなりの支援をしましょうと言う話になった。このように地域ごとで考えていかないと、市全般で考えていっても市内で移動が起こるだけになってしまう。

私が住んでいる大井第二小学校下では、人口が増えている。人口はどこから来るかという、市内からの移動が多い。以前多治見市長と話をしたのだが、多治見市でもどんどん人が出て行っているということだった。お金のある人は名古屋市を中心に家を建てている。ちょっとお金のない人は春日井市に出て行っている。今、多治見市での人口が保たれているのは、瑞浪市とか恵那市から人が来てくれているからだという話だった。恵那市の地域を守るためには、そこに人が住んでいないといけない。でないと山林も農地も荒れてしまう。地域ごとに特色のある定住対策を考えてもらえませんかという話を地域協議会でしてきた。当然、税収だとか財政が厳しくなることも話をしてきた。

委員 今の人口問題とのかかわりで、耕作放棄地の問題とのセットでの提案だ。耕作放棄地の問題は、地元では営農組合を組織しなんとかやっている。一方、都会の方で串原に住みたいという方がいらっしゃるが、現実には条件が良いところは田畑なのでそうでない急峻な土地は宅地化は難しい。国の補助事業で整備はしたのだが、過疎地の特別の対策として、整備した田や畑を、一定の条件を満たせば定住対策のための宅地として転換を認めるというような国の施策を打ち出していただければと思う。行政の壁はなかなか打ち破れないが、うまく持っていつてもらえればと思う。

委員 高齢化の進行と同時に、人口減少は従来の2倍で進んでいくということが分かった。急速に止めるというのは難しいことだと思うが、どういうことをすればいいのか。これはまさに人をつることだと思う。地域における人づくりが大切になってくると思う。これはリーダー教育だけではない。地域の教育環境も含めた、生涯教育も今の状況にあった形で考えていく、今の恵那市にあった形で考えていくことが大切ではないかと思う。

先ほども言った、近居という形。家族が同居ではなく、近くに住んで互いに助け合う形。これはある意味では中間を取った新しい考え方なのではないかなと思う。私どものプロジェクトの中でも、近居というのがどのような形なのかをはっきりと示せていないが、今後これを支援することが起爆剤になっていくのではないかと思う。

私が住む地域は豊田市の境だ。自動車産業をはじめ、景気の動向に左右されている。これからは短期政策としては何をやるのか、長期政策としては何をするのか、それらを住民が一緒になって考

えていけるコミュニティづくりが必要になると思う。市民がやる気を出すというのが大きな原動力になると思う。まさに、市が言っている協働というのがここに生まれてくるのではないだろうか。協働のベースを作るには、まずどちらが先にやるか、お互いに境界をどう踏み越えるのかというのが大切だと思う。

委員 人口減少対策プロジェクトの報告を聞いて思う。中長期的な対策としてはもっともだと思うが、緊急対策として強力な処方箋も必要ではないかと思う。長野県の下条村などでは、村であっても人口が増えている。優良な住宅を安価で供給して、固定資産税も優遇するというような、よそがやっていないことをやっている。そのように、やればできるのだから、思い切った大胆な施策を議論されたかどうかをお尋ねしたいと思う。

委員 今は課題の洗い出しということで進めているので、具体的な施策の検討というのは、今後話し合っていこうと思っている。

有本会長 これは地域計画との絡みもあるので、地域でも様々なアイデアが出てくるとよい。

委員 地域によって高齢化など格差がある。串原では人口の大半が年金で生活していると聞いた。また、各地域の小学校1年生の人数なども見ていただきたい。数名というようなところでは、この先どうなっていくのかと思う。課題の中でも、喫緊の課題なのか、長期の課題なのかを洗い出していきたいと思う。喫緊の課題に対しても、すぐにこれが特効薬になるというようなものはないと思うが、よくプロジェクトチームで考えていただきたいと思う。活力が低下しているところでは地域と行政が一緒になって、どんな対策ができるのかを考えて欲しい。その課題に取り組むことは地域の未来を考えていくことになるので、地域の特性を生かしながらどういったことができるのかをプロジェクトでは具体的に考えていただきたいと思う。

委員 先ほど3世代同居とか近居の話が出た。私の家の近くに3世代同居をしている元気な家族がいる。元気な3世代同居のおうちをなんらかのステージに上げて、市民の皆さまに紹介するのもいいのではないかと思う。プロジェクトの中で一度そんな取り組みについて諮っていただきたい。

有本会長 展開方向の中に、空き家対策とあるが、それについて何かないか。

委員 有本先生の指導を受けて、NPO法人奥矢作森林塾で今年の8

月から空き家対策をやっている。串原と上矢作町で 159 軒の空き家があるが、調査が終わり、21 年度はリフォーム塾というのを立ち上げた。

まず一軒おうちをお借りして、田舎暮らし体験館を作ろうという取り組みだ。グリーンツーリズムの関係もあるが、田舎暮らしを体験していただくということだ。そして串原に住んでいた多くの方を増やしていきたいと思っている。

地域の中学生以上を対象にアンケートを行った。住むのに困っていることとして、多く挙がっていたのは、買い物と、病院と、高齢者の生活を助ける便利屋的なものの 3 つだった。

まず買い物だが、1 年間ほどいきいき暮らせる地域づくり実行委員会というのを立ち上げ取り組んでいた。車をリースしていきいきワゴンというのを走らせたが、経費がかかった。地域には市の自主運行バスもある。登下校時には子どもでいっぱいになるが、それ以外の時間は空で走らせる状態になっていた。そのバスを利用して、10 月 1 日から串原から上矢作町を経由して、岩村町のスーパーまで走るルート、もう一つは明智町のスーパーへのルートのいきいき路線というのを考えていただいた。買い物の時間を利用して、岩村、明智の振興事務所に寄っていく路線が出来る。これも試行運転なので、どういう結果が出るか分からない。私どもなりになんとか人口を増やしていこうという施策をやっている。結果については順次皆様にご報告したいと思う。

[事務局より長期財政対策プロジェクト内容の説明]

有村会長 施設の整備、管理といった難しい面もあるかと思うが、ご意見よろしくお願ひしたい。

委 員 財源確保の話だが、今の国の状況で、財源を作れといってもなかなかできない状況だ。国の補助金が人口割というのであれば、人口減少すれば補助金も減ってしまうわけで、たくさんの面積を持っている市町村は、森林の保全などにもお金がかかるわけで、補助金の分配についても人口割以外でも考えてほしいと、国に言っていかなければならないと思う。

2 つ目としては、地域が発展するためには、いい悪いは別にして、道がないというのは夜明け前ということになる。リニア中央新幹線が通るといふこともあるので、中央道と第二東名をつなぐ高速

道路を作ってもらえないかということを声を上げるべきだ。

先日知事と一緒にいる機会があり、そのことをお話ししたら、そんなことは初めて聞いたとおっしゃっていた。それに似た話としては、中津川市と第二東名を結ぶというのは聞いたことがあるということだった。

そういう話があるのであれば、早いうちにつばをつけていただかないとならない。今回の場がそのような話をするのにふさわしいかは分からないが、恵那市としてそういう道路を作ってほしいというのであれば、どこに言えばいいのかというのが1つ目。もし作りたいと思っているのであれば、口火を切ってもらいたいというのが2つ目。

そして、今度リニアが出来るわけだが、どこに駅が出来るのかは分からないが、リニアの駅が出来ることを前提に、長野県の方を通ってしまわないように、できるだけ串原・明智の方を通って第二東名につながる道を早めに申し出てほしいと思う。そうすることで過疎の地域をなんとかしてほしいと思う。

もう一つは、もしリニアが来て、高速道路や駅ができれば、例の首都機能の移転の話が持ち上がってくるかもしれないし、大学も来るかもしれない。そうなれば過疎というのも多少は解消されるかもしれない。

私が思うのは、将来は人が働く企業は減ってくるのではないかと思う。それでいいのかはあるがロボットが働く社会になるのではないかと思う。なので、将来は自活する耕作地のついた住居が基本になってくるのではないかと思う。そういったことが田舎で出来て、都会で働く方はリニアで都会に働きに行くと、そういった地域がこの辺りに出来ることを夢見ている。

通ってからどうしようかと考えるのではなく、これからは恵那市にどういったビジョンを持つのかという明るいことを描いて、この会はこれで終わったとしてもどこかで検討していただきたいと思う。

委員

恵那市の経営の68ページに、土地開発公社の保有高12億2千万円とあるが、バブルのころにかなりの土地が各市町村に持ち込まれている。土地開発公社の存続そのものも含めて、今日のところは提起させていただきたい。土地開発公社の土地について、恵那市としてはどういう理念の下にやっていくのかというのを考えていただきたい。

公有地拡大に関する法律というのがありまして、これの基本は土地の値段がどんどん上がっていくと、土地の転売で不動産屋さん等が不当な金儲けに走り、それで公共事業が遅れる。そのような観点からそれらを防ぐために出来たのではないかと思う。各市町村の土地開発公社の残高はかなり多い。将来問題になってくると思う。今日は問題提起をさせていただきたい。

副市長 私は土地開発公社の理事長をさせていただいているが、土地開発公社の保有高の99%以上が、国道19号の拡幅のための先行取得の土地だ。他市と違って、恵那市は不良資産を持っていない。19号の拡幅の用地の先行取得を、国の方から委託をされて、所有しているということで、後に買い戻しをしていただけるものだ。恵那市の場合は不良資産を持っていない。このことをご報告させていただく。

事務局 先ほどの、人口が減ると補助金が減るという話について補足説明させていただく。先ほど申し上げたのは、地方交付税というのは、定められた行政サービスを行ったときに、想定される歳入から不足する分を国から交付していただくものだ。面積も算定の要素に入っている。また例えば森林の面積や、農家数、保育園園児数なども算定の要素に入っている。大元として人口要件があるということだ。

委員 第三期テクノパークの造成がされていると理解しているが、税収面ではその辺のカウントは総合計画の中でされているのか。もう一点は、長島町大崎地区の辺りでは商業施設がいろいろと進出してきているが、税収面は多少増えてきているのか。その辺りをおたずねしたいと思う。

経済部
調整監 現在第三期のテクノパークの造成を行っていて、来年の3月には完成する予定だ。それが税収にカウントされているかどうかという話だが、まだ県の土地開発公社が所有しているので、課税対象にはなっていない。なおかつ、財政の見込みとしては過去のトレンドとして推計してあるので、どのような企業が入ってくるかわからないので、将来入ってくる見込みは追加されていない。

副市長 区画整理地内について質問があったが、国・県・市が合わせて約36億円を掛けた。国の費用が大きいですが、以前に行った試算では、大体30年くらいかかればプラスに転じるだろうということだ。正確な数字はわからないがご理解願いたい。

有本会長 今日は課題の洗い出しをおおよそみなさんと共有するというこ

とだったので、これらを踏まえてワーキンググループを進めていただく。そして地域計画との整合性を図っていただく。そういった中で秋口くらいにはおおよその内容をまとめるということだ。さらにみなさんにご奮闘お願いしたい。

③その他

[事務職よりスケジュールの説明]

可知市長 長時間にわたり感謝する。課題ということで、人口とか財政とかの話をしていただいたので、少しは理解していただけたのではないかと思う。市民の皆さまに知ってもらわないといけないと思う。そのうえでどうしていくのかというのが後期計画の主眼だと思う。

一つだけ、ある委員がおっしゃったことに補足させていただく。総合計画の本編の中に、三河東美濃地域高規格幹線道路の構想がある。これはまさに、この地域から第二東名に行く道路の計画で、平成8年に出来ている。毎年岐阜県、愛知県に要望に行っている。毎年知事さんのところに行っているので、先ほどのお話が本当ならば誠に残念なところではある。これは大きな夢をもてる一番大事な道路だと思っている。

また、これからは皆さんから、さらにお知恵をいただきたいと思う。また、地域協議会の方にも、ご相談、ご意見をいただくことになると思う。地域計画で上げても、本計画に残らないというようなことがないように、整合を図り、みなさんの声を反映していきたいと思っている。